

## 1. 調査目的

卒業後の就職実態を把握しつつ、在学中の教育プログラムで伸ばした能力、就職活動の軌跡等を調査し、今後の学修支援、キャリア支援の充実・改善を図る。特に学生の成長した背景や内定獲得の要因等を深く探るため、インタビュー調査をする。

## 2. 対象

2021年度の学部卒業生（社会人1年目）

<対象者>

## 3. 調査方法

個別インタビュー（構造化面接） Zoomにて実施（30分）

	卒業した学科	勤務先・業種
1	日本語コミュニケーション学科	自動車メーカー
2	法律学科	建設
3	政治学科	保険
4	経営学科	情報・通信
5	人間科学科	情報・通信
6	環境システム学科	小売
7	数理工学科	情報・通信
8	幼児教育学科	運輸・郵便
9	薬学科	製薬メーカー
10	法律学科	国家公務員

## 4. 調査時期

2023年4月～5月

## 5. 調査結果

多様な学科・進路先の卒業生に対しメールにて連絡を取ったうち、対応可能と回答があった10名にインタビューを行った。

## サマリー

インタビュー内容から、「成長要因」「進路選択・就職活動」「大学への満足度要因」「大学への要望」について、同様の意見などの共通点が挙げられた。以下の通りまとめる。

<b>成長要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを社会で活かす機会 : 地域住民と取り組んだ環境プロジェクト、保育・教育実習</li> <li>・海外での経験 : GLP(グローバル・リーダーシップ・プログラム)での海外ホームステイ経験、海外フィールド・スタディーズ、スウェーデンのサスナビリティ視察ツアー</li> <li>・基礎能力を高める授業 : コミュニケーション能力を高めるGW、集中力を高める双方向型授業、ゼミでの議論を深める学び</li> <li>・成功体験 : 数理工学科でのコンテスト出場・入賞経験、資格取得</li> </ul>
<b>進路選択・就職活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人との協力 : エントリーシートを見せ合い意見をもらう、等協力しあって乗り越えた経験</li> <li>・学内資源の活用 : キャリアセンター活用 →キャリアアドバイザー制度活用（個人面談やエントリーシート添削）、就活対策講座受講</li> <li>: 学科教員活用 →学科独自の就職対策を活用、教員へ気軽に相談</li> </ul>
<b>大学への満足度要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人 : 良い友人や先生、学問と出会えたこと</li> <li>・機会 : 大学から提供される様々な機会を活用して経験・成長できたこと</li> </ul>
<b>大学への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学科などとの交流の機会がもっとあると良い</li> <li>・知名度を上げてほしい</li> <li>・社会で活躍している、多様な進路先の先輩の話をもっと聞きたかった</li> <li>・学生が活用できる良い制度があるためもっと周知してほしい</li> </ul>